

平成26年度



いのちの基金 活用報告書

横須賀市健康部

このたびは「いのちの基金」にご協力をいただき、
誠にありがとうございました。

「いのちの基金」は、
横須賀を「いのちを大切にすまち」にしたい、という思いから、
平成 24 年度に創設しました。

「いのちの基金」には、
皆様からの寄附と同額を市も積み立てることなど、
これまでの市の基金にはない特徴がありますが、
そのひとつに、
寄附をいただいた方に活用実績をご報告すること、があります。

この活用報告書では、
平成 26 年度の「いのちの基金」の積立額や、活用した事業などについて
ご紹介しました。
ご一読いただければ、
有効に活用されていることがわかりいただけると存じます。

年度終了後、速やかにご報告したかったのですが、活用した金額(決算額)
については、市議会の審議・承認を得る手続きが必要となるため、
この時期になりましたことをご理解いただければと思います。

引き続き「いのちの基金」へのご支援・ご協力を、
よろしくお願いいたします。



横須賀市長 吉田雄人

「いのちの基金」について

1 目的

「いのちの基金」は、「いのちを大切にす都市 横須賀」の実現を目指して、市民の皆様といのちの大切さを共有し、命を育み、守るための医療を支援する費用に活用することを目的に、平成 24 年度に創設しました。

2 特徴

「いのちの基金」には、

- ① 活用する事業を、特定していること。
- ② いただいた寄附と同額を、市も拠出すること。
- ③ 寄附をいただいた方に、活用結果を報告すること
という、3つの大きな特徴があります。

3 「いのちの基金」を活用する事業

医療環境は、年々変化します。

このため、「いのちの基金」を活用する事業は、その時々々の医療ニーズに対応できるよう、定期的に見直しを行う予定ですが、平成 26年度は、

- ① 不育症治療費の助成
- ② 看護師離職防止研修
- ③ 産科医師確保経費の助成

の3つの事業に、いのちの基金を活用しました。

4 シンボルマーク



「命」という漢字をモチーフに、人が寄り添い、思いやりのハートと、幸福を表す虹を描いたデザインで、市内在住の奥野和夫さんの作品です。

「いのちの基金」の積立額

1 平成26年度の積立総額は、7,052,935 円となりました。

－内訳－

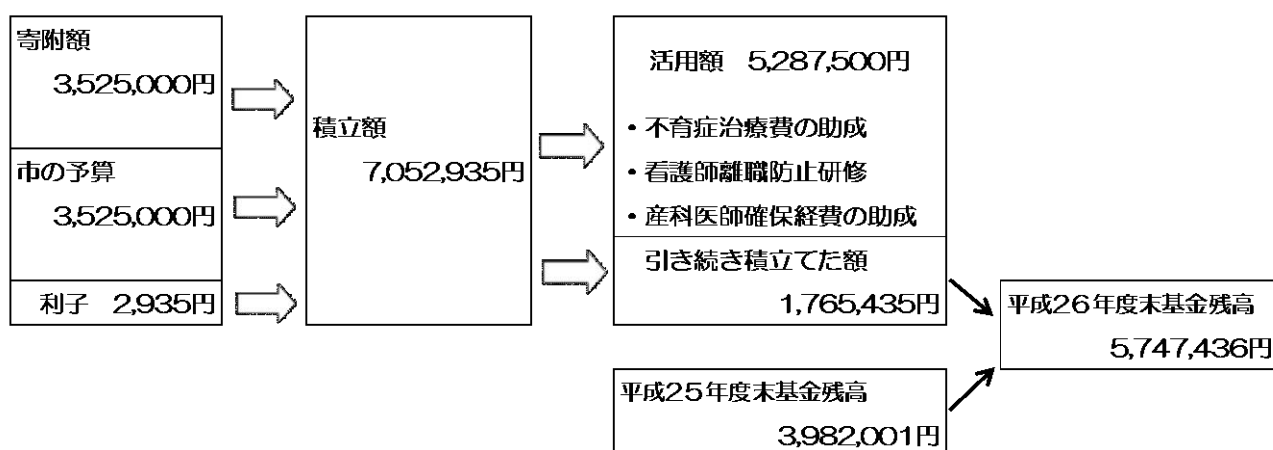
| | | | |
|--------------------|--------------------|-----------------------------------|--|
| みなさまからの寄附金 45 件 | 3,461,929 円 (ア) | | |
| 19 か所の募金箱にいただいた寄附金 | 63,071 円 (イ) | | |
| ① 寄附金の合計 (ア)+(イ) | 3,525,000 円 | } ①+②+③ 7,052,935 円 (a) | |
| | ⇕ 同額 | | |
| ② 市の予算からの積立て | 3,525,000 円 | | |
| ③ 基金の運用利子 | 2,935 円 | | |

2 活用した額 **5,287,500 円 (b)**

3 引き続き積立てた額 (a-b) **1,765,435 円**

※平成26年度末の基金残高は、昨年度末の残高 3,982,001 円を加えて、5,747,436 円となりました。

(積立てのイメージ)



「いのちの基金」を活用した事業

平成26年度は、

- 1 不育症治療費の助成
- 2 看護師離職防止研修
- 3 産科医師確保経費の助成

の3つの事業に、「いのちの基金」を活用させていただきました。

1 不育症治療費の助成

(1) 不育症とは

不育症は、妊娠をしても、流産・死産などを繰り返して、結果的に子どもを授かることができない症状です。

厚生労働省では、不育症について、「妊娠はするけれど2回以上の流産・死産もしくは生後1週間以内に死亡する早期新生児死亡によって児が得られない場合」と定義しています。原因はさまざまですが、治療によって85%の不育症患者が出産にたどりついていることがわかっています。

正確な不育症患者の数は不明ですが、年間の妊娠届出数や流産の頻度から考えると、毎年妊娠される方のうち、数万人は不育症の可能性があり、不育症は決してめずらしいものではないといえます。

しかし、検査や治療には、健康保険が適用されないものが多く、高額な医療費がかかります。

子どもを望むご夫婦の経済的な負担を少しでも軽くし、あたらしい「いのち」を授かることができるよう、横須賀市では平成24年度から、不育症治療費の助成事業を開始しました。

(2) 基金の活用実績

- | | |
|------------|-----------|
| (ア) 助成した件数 | 2件 |
| (イ) 助成した額 | 295,412 円 |

2 看護師離職防止研修

(1) 離職防止研修に取り組む背景

神奈川県の人口あたり看護師数は、全国的に見て低い状況が続いています。一方で看護師の養成数自体は増えてきていますが、看護師不足は続いています。離職する看護師が多いことが、看護師不足の大きな原因といわれています。(詳しくは6ページからの“地域医療の課題 看護師不足”をご覧ください)

(2) 離職防止研修とは

横須賀市では、市立看護専門学校を運営して看護師の育成に努めてきましたが、育てるだけではなく、離職する看護師も減らさないと、看護師不足の解消はできません。

各病院でも独自に看護師を対象とした研修を実施していますが、看護技術の習得を通じて看護師としてステップアップすることを目的とすることが多く、病院内で実施される場合がほとんどです。

本市の離職防止研修は、看護師としてどのようなキャリア形成を行っていくのかという視点に立って実施しています。違う病院の、同じような経験年数の看護師と一緒に受講することで“悩んでいるのは自分だけではない”といった気づきがあり、離職防止に効果が期待できます。

(3) 基金の活用実績

| | |
|-------------|----------|
| (ア) 研修の開催回数 | 2回 |
| (イ) 研修の開催費用 | 300,000円 |



研修受講者の上司のみなさんからの声

- ・ 毎日の役割に積極性が出てきました。「辞めるかも…」と口にしなくなりました。
- ・ 将来の目標が明確になりつつあり、ステップアップしたいという意欲が高まったようです。
- ・ 仕事に対して責任感がみられるようになりました。仕事全てに自信を無くしていた時期での参加でしたが、参加後は表情が明るく、自信も出てきました。

3 産科医師確保経費の助成事業

(1) 産科医師確保補助金制度

全国的に産科医師が不足していますが、横須賀市では、市民が安心して出産ができるまちづくりを進めるために、産科医師の増加を目的とした、産科医師確保補助金制度を平成23年度に創設しました。

この制度は、市内の医療機関が新たに産科医師を雇用して医師数が増えた場合に、横須賀市から補助を行うものです。

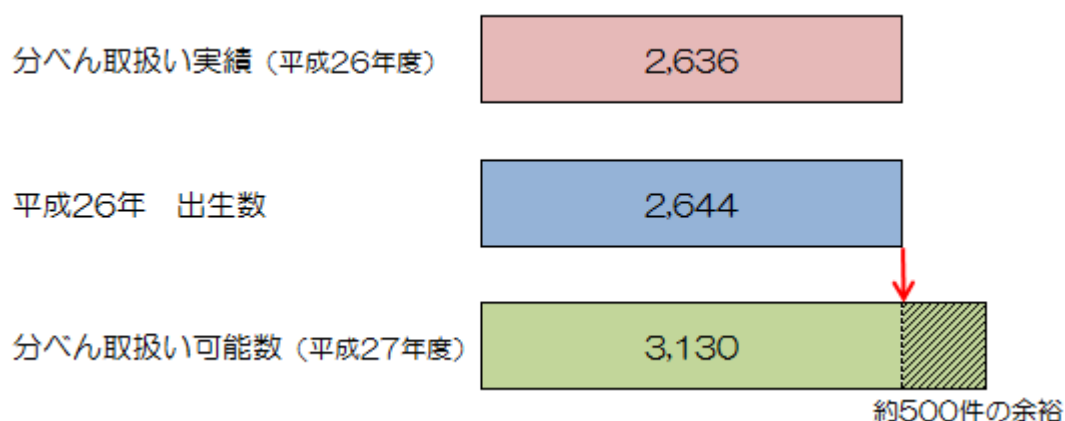
一時期、市内では産科医師が9名という危機的な状況にありましたが、平成26年度当初には23名にまで増加し、出産環境は大きく改善されました。(下記「※横須賀市内の分べん数」のとおり)

これからも、安心して子どもを産み、育てる環境づくりを進めていきます。

(2) 基金の活用実績

平成26年度は、市内の2つの病院が雇用した3名の産科医師の確保経費に18,070,000円の補助を行い、その一部に「いのちの基金」を活用させていただきました。

※横須賀市内の分べん数



市内医療機関が平成26年度に取り扱った分べん数は合計2,636件、平成26年に出生した横須賀市民は2,644人で、ほぼ同数でした。(里帰り出産があり、同数にはなりません)

その一方、最大3,130件まで分べん取り扱いが可能(平成27年度)ですので、受入れに約500件の余裕があり、市内で出産できる環境が整っていることがわかります。

地域医療の課題 看護師不足

“看護師不足”という言葉聞いたことがある方は多いと思います。ご寄附いただいた“いのちの基金”も、看護師の離職防止研修に活用しています。

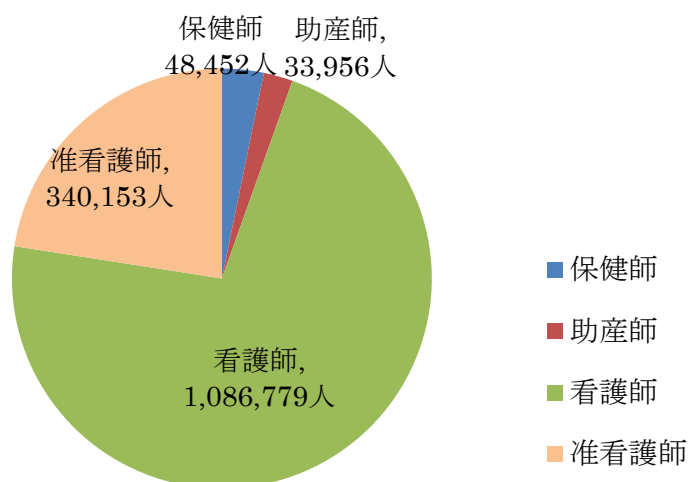
では、看護師不足の実態はどうなのでしょう？

1 看護職員数

まず、全国と神奈川県の見ていきます。

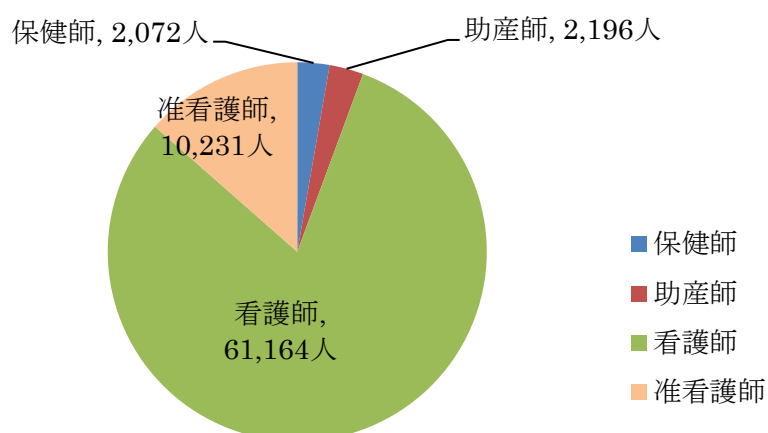
(1) 全国の看護職員数

1,509,340 人（うち看護師は 1,086,779 人）



(2) 神奈川県の看護職員数

75,663 人（うち看護師は 61,164 人）



2 看護職員不足の状況

(1) 人口 10 万人あたり看護職員数

神奈川県は人口も多い（約 900 万人）ため、約 7 万 5 千人もの看護職員が働いています。しかし、人口 10 万人あたりで全国比較すると、どうなるでしょうか。

| | | |
|-----|-----|----------|
| 38位 | 滋賀 | 1,119.2人 |
| 39位 | 大阪 | 1,090.9人 |
| 40位 | 奈良 | 1,069.3人 |
| 41位 | 静岡 | 1,043.0人 |
| 42位 | 茨城 | 1,009.6人 |
| 43位 | 愛知 | 986.6人 |
| 44位 | 東京 | 889.8人 |
| 45位 | 千葉 | 849.3人 |
| 46位 | 神奈川 | 831.8人 |
| 47位 | 埼玉 | 810.9人 |

この表のように、平成 26 年度の神奈川県の人口 10 万人あたり看護職員数は、全国 46 位（下から 2 番目！）の 831.8 人で、全国平均 1,187.7 人を大きく下回っています。

また、44 位から 47 位を見るとわかるとおり、首都圏での不足が目立つ結果となっています。

(2) どれ位不足しているのか

厚生労働省の「第 7 次看護職員需給見通し」（平成 23 年度～27 年度）によると、神奈川県の看護職員は平成 27 年度には 1,778 人不足すると推計されていましたが、神奈川県は平成 26 年度 12 月末現在で 6,068 人不足と公表しています。

3 なぜ不足するのか

看護職員の不足を解消するための根本的な解決方法として、看護師を増やす＝養成数を増やす＝ことがあります。

| | 学校数 | 入学定員 |
|--------|------|--------|
| 平成19年度 | 512 | 23,447 |
| 平成26年度 | 537 | 26,957 |
| 増加数 | 25 | 3,510 |
| 増加率 | 4.9% | 15.0% |

左の表は、全国の 3 年課程の看護師養成所の状況をまとめたものです。

平成 19 年度と 26 年度で比較すると、入学定員で 3,501 人、率にして 15%の増加となっています。

しかし、看護師の養成数は増えている一方で、看護師不足は解消されていません。離職する看護職員が多いことが、大きな原因といわれています。

日本看護協会の調査によると、平成 25 年度の病院勤務の看護職員の離職率は、常勤全体で 11.0%、新卒は 7.5%でした。

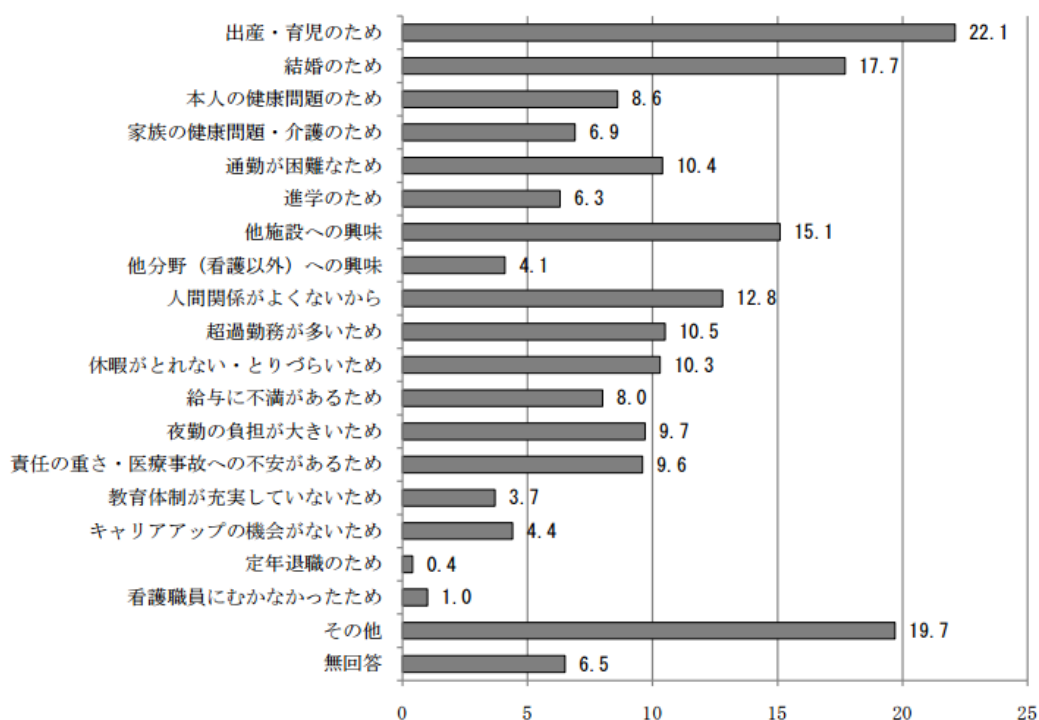
特に常勤看護職員の離職率が全国平均を上回っているのは、高い順に東京（14.6%）、神奈川（14.0%）、大阪（13.9%）、兵庫（13.3%）などで、都市部で離職率が高い傾向が続いています。

また、常勤・新卒ともに、小規模病院（100 床未満）ほど離職率が高くなる傾向にあります。

4 離職の理由

厚生労働省が平成 22 年度に実施した「看護職員就業状況等実態調査」では、以下のような離職理由が挙げられています。

出産・育児・結婚のほか、多忙なこと・夜勤・医療事故の不安など、勤務への負担感が大きいこともうかがえます。



横須賀市では、平成 16 年度から市立看護専門学校を運営し、これまで 287 人の卒業生を送り出しました。卒業生のうち約 85%は市内の医療機関に就職し、市内の地域医療に大きく貢献しています。

しかし、養成するだけでなく、市内の医療機関で勤務し続けることも重要と考え、平成 24 年度より離職防止研修を実施しています。

平成26年度のご寄附者 一覧

一般社団法人 内外情勢調査会 様
かながわ信用金庫 様
国際ソロプチミスト横須賀 様
横須賀北ロータリークラブ 様
井川 久江 様
岩永 和子 様
よこすかパリ祭実行委員会 様
トータルビューティーサロン イブ 様
追浜ダンスフェスタ実行委員会 様
横須賀三曲会 様
中喜美 栄薫 様
眞子 美智子 様
五郎丸 繁子 様
国際ロータリー第2780地区 様
横須賀商工会議所女性会 様
柳井 芳明 様
横須賀ロータリークラブ 様
ネットヨタ神奈川(株) ウエインズ横須賀佐原店 様
医療法人社団 小磯診療所 様
山元 洋子 様
石川 けさ江 様
石川 悟 様

※ご寄附をいただいた日付順。

※ご寄附の際に、公表を希望しないとお申し出があった方は除きます。

「いのちの基金」は、今後も、命を育み、守るための医療を支援する事業に活用していきます。引き続き、ご協力をお願いします。

平成27年11月

横須賀市健康部 地域医療推進課 地域医療政策係
住 所 〒238-0046 横須賀市西逸見町 1-38-11
ウエルシティ市民プラザ3F
電 話 046-822-4751
メール ga-hm@city.yokosuka.kanagawa.jp